

## 夢に向かって一歩ずつ

### 「みんな」が安心して、楽しい学校になるには

皆さん。二学期の終業式で、校長先生は「すべての治田小のみなさんが、安心して、楽しい学校生活になるために、どうしたらよいか 考えてきてほしい」と言いました。校長先生も、一生懸命考えました。

たくさん考えた内の、一番大事だと思ったことを、新しい年の最初にお話しします。去年の、二人の1年生1・2学期の、二人の1年生のやりとり 一男の子をAくん 女の子をBさんと呼びますー から、考えたことです。皆さんもきっと、似たような経験があるのではないかと思いますので、その時の二人の様子を想像しながら、聞いてもらえると嬉しいです。

1年生は一学期 二学期と、たくさん「お友達の良いところ探し」をしました。友達と良いところを伝え合って、自分が大切な存在であることを感じて欲しい・・・森先生、塩原先生は、そんな願いをもっていらっしゃいました。

ある日の道徳の授業。 校長先生の目の前にいたAさんは、授業の初め、担任の先生が「自分の良いところって、どんなところ？」と尋ねられた時、すぐさま「ない」とつぶやきました。次に、先生が「お

隣さんのいいところをカードに書いてみましょう」と言われた時も、

「ううん」と悩みはじめてしまい、今度はちょっと大きな声で、「無

いよ、ナイナイ」と言いました。お隣のBさんは、さぞがっかりしたのではと目をやると、全く気にせず、

「Aくんのいいところはね・・・」と考え始めてくれていました。そして、ぱっと顔をあげると、「ああ、

水筒名人だ!」と言いました。それを聞いた時、Aさんはきょとんとした顔をしていました。でも、ちょ

ど近くに来られた先生が、「Bちゃん、どうしてそう思ったの?」と聞いてくださると、Bさん、「だってね、

帰りの会の時、Aくんいつも、自分のと、私の水筒も見つけて、持ってきてくれるから。だから、水筒名人」・・・

ああ、なるほど、そういうことだったんだ。言ってもらったAさんはどう思っただろうと、そっと顔を見る

と、ちょっと考えた様子の後、Aさんもこう言いました。「Bちゃんは、見つけ名人。僕が水筒を持ってきた

あげていることを、見てくれていたから、見つけ名人」



そして、授業は終わりました。でもでも、その後も 素敵なことが起こったのです。

帰りの会の「嬉しかったことの発表タイム」が始まった時。Aさんが、手を まっすぐ挙げました。他のお友達が当たると、がっかりしては てもまた次、何度も何度も手を挙げ続けました。

ついに、先生に当ててもらおうと大きな声で、こう言いました。「Bちゃんに、僕が水筒名人って言ってもらえて、すごく嬉しかったです」 見つけてあげたBさんも、嬉しそうに聞いていました。

授業の初めの時は、自分のことも、お友達のこと、「いいところなんて無い」と言っていたAくんが、どうして帰りの会で、何度も手をあげて、自分の喜びをみんなに伝えたのか。

皆さんは、どうしてだか、分かる？ きっと、分かっているんじゃないかな。 私は、こう考えました。

自分の欠点はよく見える。テストの点数だとか、先生に注意をされちゃうとか・・・そうやって、痛みとなって返ってくるから、「自分はだめだなあ」なんて思っちゃう。そして、良さは、自分では当たり前に出てしまっているから、それが「いいところ」だなんて思いもしない。Aさんは、水筒を取りに行くとき、自分のものだけではなく、当たり前のように、お隣のBさんの水筒も探して届けていたのだけれど、それが自分の優しさであることに、Aさんは気づいていない。

でも、Bさんは伝えてくれた。「Aくんは、水筒名人。優しい人なんだよ。 いつも、私の分まで水筒を見つけてくれてありがとう」 って。

Aさんは、その言葉を受け取って初めて、自分のやっていたことを、喜んでくれている人がいたことに 気づくことができた。Aさんの喜びの挙手は、自分でも気づいてい

なかった自分の良さ、自分「らしさ」に気づくことが出来て、嬉しいエネルギーで心の中がいっぱいになったから、生まれた姿。

そして、その姿は、Aさんの良さをちゃんと見てくれていた、Bさんの目・見方が生み出したものなのだと 思いました。

**どの人にも、良さはある。どんな人にも、必ず** それは、見ようとすれば、きっと見えてくる。そして、よさや「らしさ」が見えた時、欠点と見えていたものも、不思議と気にならなくなる。相手の欠点の方ではなく、良さを見つけ、認める目を持つ人が、クラスの中に一人、又一人と増えていくことで、きっと、どの人も安心して 自分らしくいられるクラス、楽しい、治田小学校が 生み出されていくと、私は思うのです。

2026年も、自分と友達、先生達の良さ「らしさ」をたくさん見つけて、認め合って、みなさん「らしさ」、治田小「らしさ」が いっぱい輝く 1年にしたいね。



## 1月の様子（学年入れ替わりで紹介していきます）

### 【5年】新年度の児童会発足へ向けて

2学期末にそれぞれのクラスから、立候補者、推薦責任者が決まり、その準備のために選挙ポスターを冬休み前に作成してきました。選挙管理委員会もポスターの作成も、立候補者や推薦責任者もどれも立候補で決まり、自分から良い学校にしよう・応援しよう、と考えてくれていることがいいなあと思いました。Canvaで作成したポスターは、校舎内に掲示されるといろいろな学年の人がよく見ていました、先週からクラス訪問が始まり、推薦責任者や立候補者が緊張しながらも堂々と発表していて、今年の5年生は頼もしいなという姿を他の学年の人たちも感じるかっこいい姿でした。



そして、22日（木）の5時間目に3～6年生までが体育館に集まって、児童会長選挙の立会演説会と選挙が行われました。今年は、千曲市役所から大人も使う本物の投票箱を借りてきて行いました。立候補者・推薦責任者は、大勢の前でしっかり自分の考えを伝えていました。そしてその会を進めるにあたって、選挙管理委員会の人たちは、休み時間も担当の仕事を責任もってきちんとやっていました。演説をみんながしっかり聞いてくれ、その後の投票もスムーズに行われました。3年生は、初めての選挙でドキドキしながら投票用紙に○を書き、投票していました。今年はすぐ開票が行われ、6時間目には選挙結果の発表があり、令和8年度の児童会の形が見え始めました。来週以降、委員会の3役もだんだん具体的になっていきますが、児童会だけに限らず、いろいろな場面で全校の先頭に立ち、学校を引っ張っていくのが最上級生です。

5年生の3学期は「6年生の0学期」という言葉通り、2月下旬にある新委員会や3月初旬の6年生を送る会の計画や準備で、休み時間も忙しくなると思います。今までのような個人で遊ぶような自由な時間が減り、全校のために自分の時間を使っていく中で、「最上級生って大変だなあ」「今まで6年生ががんばってくれていたんだなあ」ということを実感するからこそ、「陰でがんばってくれてきた6年生のために送る会を成功させたい」という思いも生まれるのだと思います。「最上級生を引き継ぐ」とはどういうことかを考えながら、5年生全員で協力して支え合って乗り越えていきましょう。

